

I 調査結果の概要

1 生乳生産量と用途別処理量

(1) 生乳生産量

— 生乳生産量は0.3%減少 —

生乳生産量は798万2,030 tで、前年に比べ2万5,387 t (0.3%)減少した。

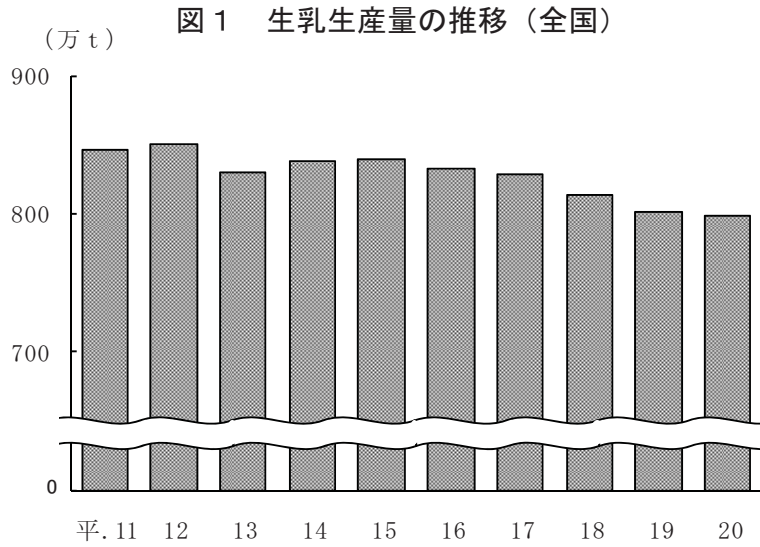
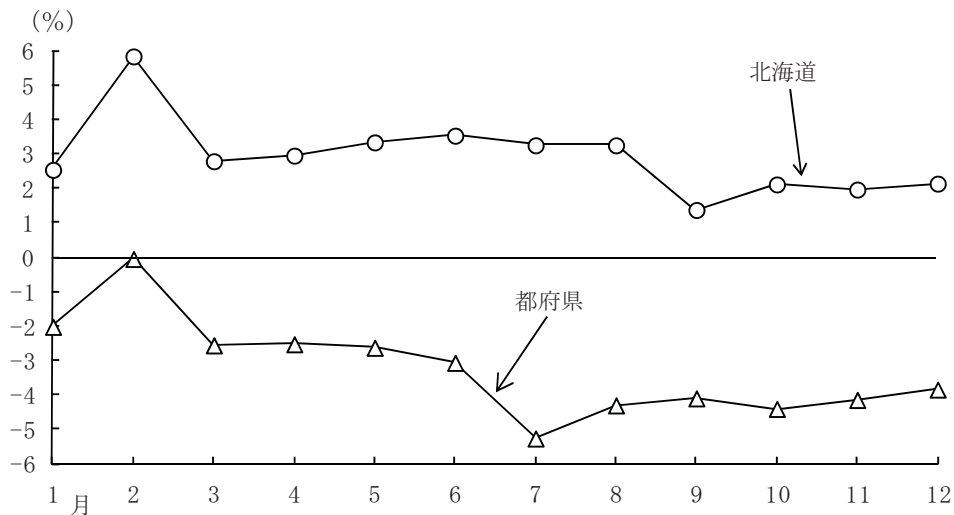


表1 生乳生産量

単位 { 生産量: t
比率: %

年次	生乳生産量			対前年比		
	全国計	北海道	都府県	全国計	北海道	都府県
平成20年	7 982 030	3 905 285	4 076 745	99.7	102.9	96.8
19年	8 007 417	3 794 892	4 212 525	98.4	99.9	97.1

図2 生乳生産量の前年同月に対する増減率 (平成20年)



(2) 全国農業地域別生乳生産量

－ 北海道の生乳生産量シェアは48.9% －

全国農業地域別の生乳生産量をみると、北海道が390万5,285 t (全国に占める割合48.9%)で最も多く、次いで関東が120万3,061 t (同15.1%)、九州が72万8,580 t (同9.1%)の順となっている。

図3 生乳生産量シェア (全国農業地域別)

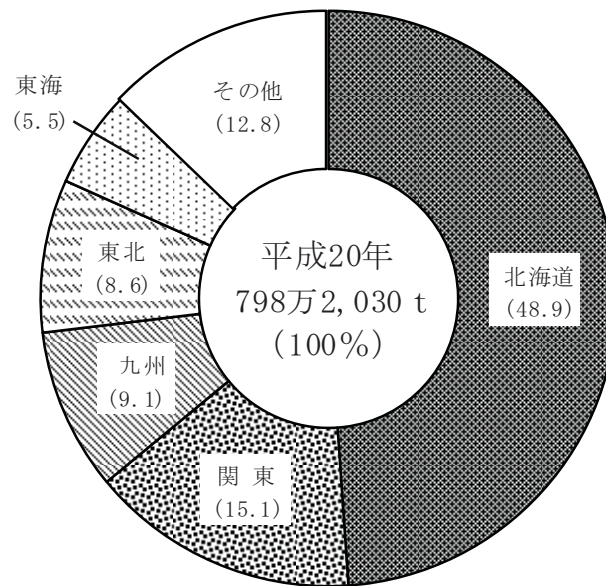


表2 生乳生産量 (全国農業地域別)

年次	単位 { 生産量 : t / 比率 : %										
	北海道	東北	北陸	関東	東山	東海	近畿	中国	四国	九州	沖縄
平成20年	3 905 285	687 360	122 637	1 203 061	144 525	435 921	234 755	334 378	155 616	728 580	29 912
19年	3 794 892	708 830	128 547	1 232 730	152 814	450 777	248 971	340 336	158 563	757 918	33 039
対前年比	102.9	97.0	95.4	97.6	94.6	96.7	94.3	98.2	98.1	96.1	90.5

(3) 全国農業地域別生乳移出入量

— 北海道の生乳移出入量差は37万9,352 t —

全国農業地域別の生乳移出入量をみると、移入量よりも移出量が多いのは北海道、東北、九州の順に多く、移出量よりも移入量が多いのは関東、近畿、中国の順となっている。

図4 生乳移出入量（全国農業地域別）（平成20年）

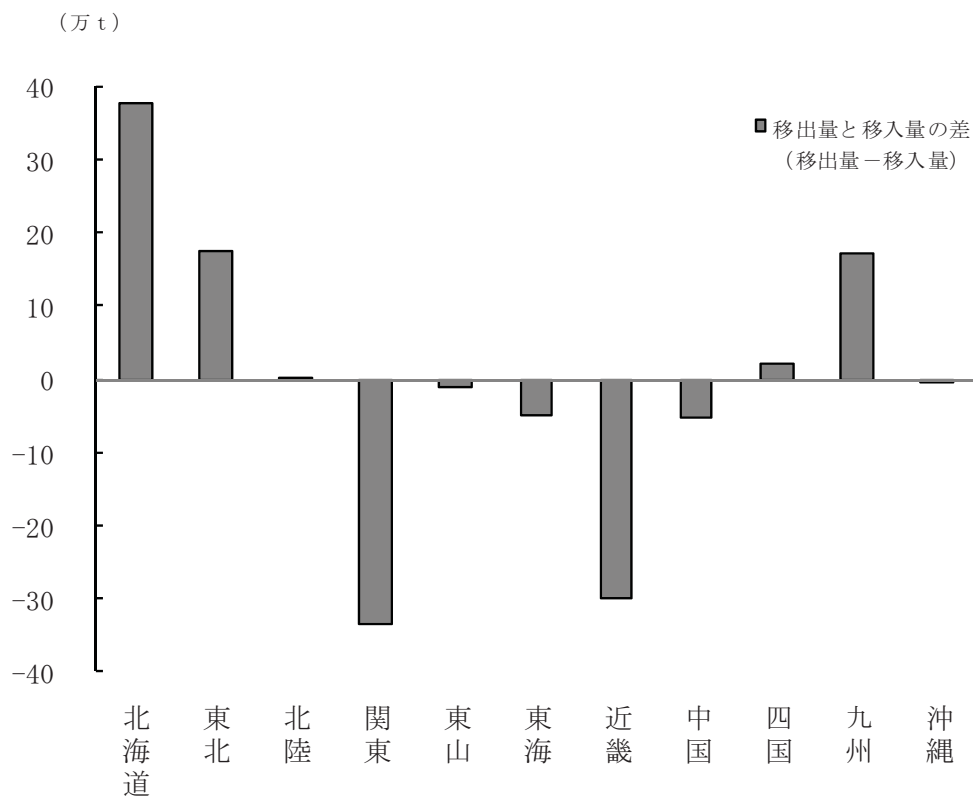


表3 移出量と移入量の差（全国農業地域別）（平成20年）

区分	単位：t										
	北海道	東北	北陸	関東	東山	東海	近畿	中国	四国	九州	沖縄
移出量	381 435	326 610	30 699	690 168	42 463	91 799	122 996	81 787	52 439	379 473	275
移入量	2 083	150 198	29 858	1 026 751	51 975	141 172	424 299	135 519	31 864	205 853	572
移出量-移入量	379 352	176 412	841 △	336 583	△ 9 512	△ 49 373	△ 301 303	△ 53 732	20 575	173 620	△ 297

(4) 用途別処理量

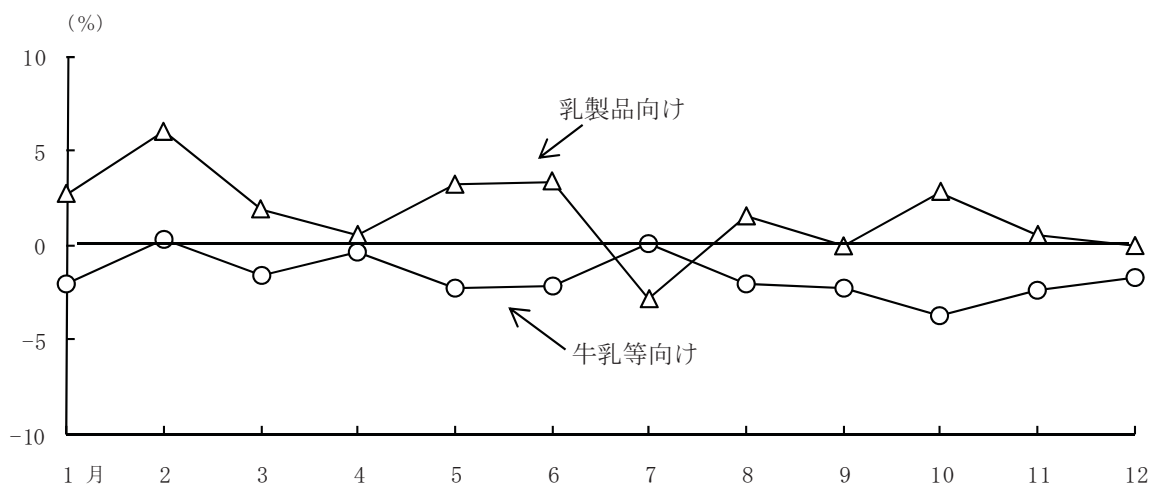
－ 牛乳等向け処理量は1.7%減少 －

生乳の用途別処理量をみると、牛乳等向け処理量は444万2,561tで、前年に比べて7万8,179t(1.7%)減少し、乳製品向け処理量は345万7,962tで、前年に比べて5万5,623t(1.6%)増加した。

表4 生乳用途別処理量(全国)

年次	生乳生産量	用途別処理量				
		牛乳等向け	業務用向け	乳製品向け	その他向け	欠減
平成20年	7 982 030	4 442 561	335 676	3 457 962	81 507	20 677
19年	8 007 417	4 520 740	326 223	3 402 339	84 338	20 632
対前年比	99.7	98.3	102.9	101.6	96.6	100.2

図5 生乳用途別処理量の前年同月に対する増減率(全国)(平成20年)



2 牛乳等生産量

(1) 飲用牛乳等生産量

— 牛乳生産量は2.3%減少 —

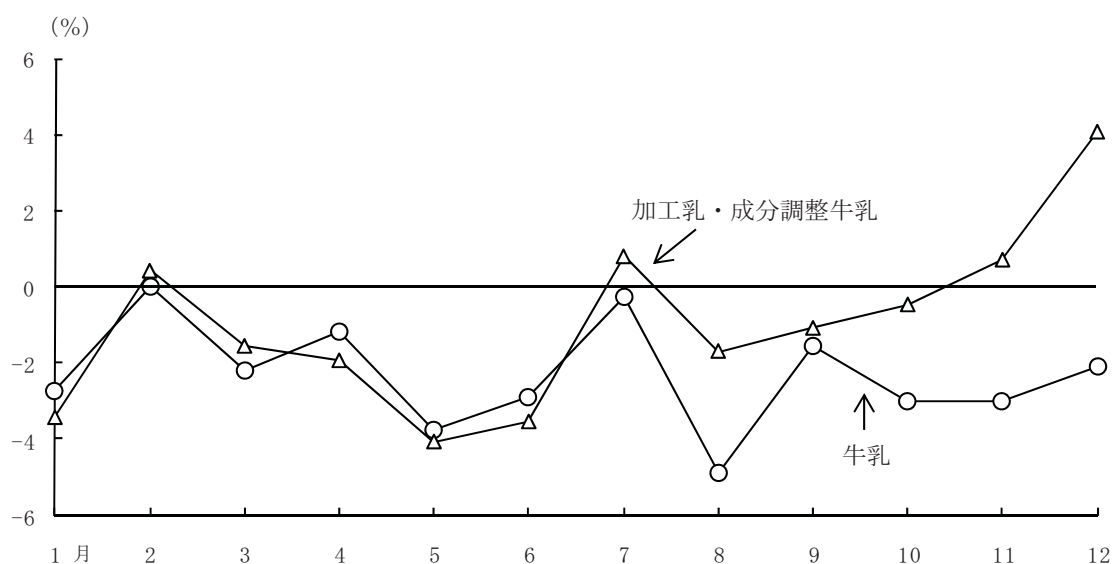
飲用牛乳等の生産量をみると、牛乳生産量は350万8,968k1、加工乳・成分調整牛乳生産量は44万1,616k1で、前年に比べそれぞれ8万3,440k1(2.3%)、4,581k1(1.0%)減少した。

表5 飲用牛乳等生産量(全国)

単位 { 生産量：k1
比率：%

年次	飲用牛乳等					
	計	牛乳	業務用	加工乳・ 成分調整牛乳	業務用	成分調整牛乳
平成20年	3 950 584	3 508 968	317 101	441 616	19 181	241 842
19年	4 038 605	3 592 408	307 771	446 197	28 015	196 718
対前年比	97.8	97.7	103.0	99.0	68.5	122.9

図6 飲用牛乳等生産量の前年同月に対する増減率(全国)(平成20年)



(2) 全国農業地域別飲用牛乳等生産量

－ 関東の飲用牛乳等生産量シェアは31.1% －

全国農業地域別の飲用牛乳等生産量をみると、関東が122万8,237k1(全国に占める割合31.1%)で最も多く、次いで北海道が51万6,211k1(同13.1%)、近畿が46万6,399k1(同11.8%)の順となっている。

図7 飲用牛乳等生産量シェア（全国農業地域別）

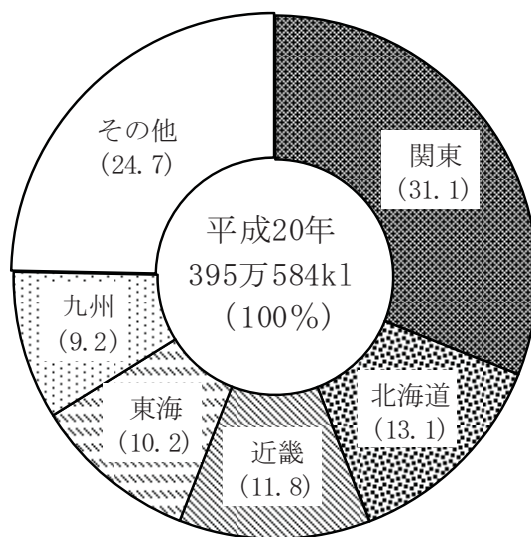


表6 飲用牛乳等生産量（全国農業地域別）

年次	単位										
	北海道	東北	北陸	関東	東山	東海	近畿	中国	四国	九州	沖縄
平成20年	516 211	297 430	108 839	1 228 237	139 090	401 114	466 399	287 633	108 527	363 494	33 610
19年	507 682	318 267	110 814	1 282 391	134 836	387 021	479 883	294 545	115 820	372 052	35 294
対前年比	101.7	93.5	98.2	95.8	103.2	103.6	97.2	97.7	93.7	97.7	95.2

(3) 乳飲料、はっ酵乳及び乳酸菌飲料生産量

－ 乳飲料生産量は5.4%減少 －

乳飲料の生産量は124万1,363k1、はっ酵乳の生産量は81万3,404k1で、前年に比べそれぞれ7万712k1(5.4%)、3万939k1(3.7%)減少し、乳酸菌飲料の生産量は17万8,850k1で、前年に比べ6,080k1(3.5%)増加した。

図8 乳飲料、はっ酵乳及び乳酸菌飲料生産量の推移（全国）

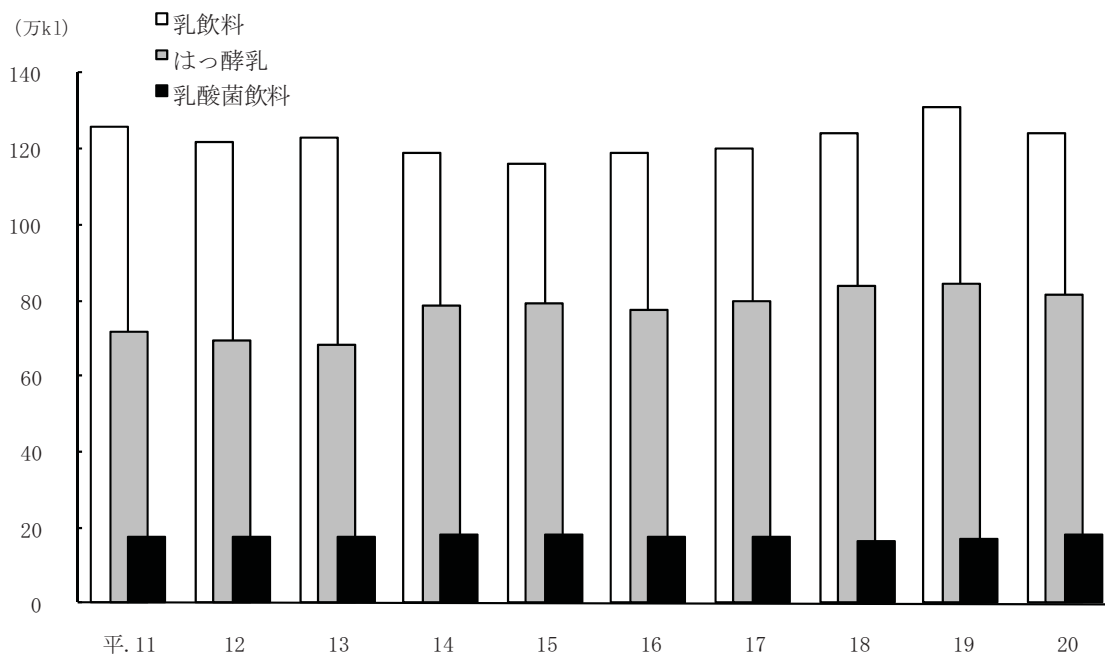


表7 乳飲料、はっ酵乳及び乳酸菌飲料生産量（全国）

年次	単位		
	生産量：k1	比率：%	
	乳飲料	はっ酵乳	乳酸菌飲料
平成20年	1 241 363	813 404	178 850
19年	1 312 075	844 343	172 770
対前年比	94.6	96.3	103.5

3 乳製品生産量

－ クリームは増加、脱脂粉乳、チーズ及びバターは減少 －

主な乳製品の生産量をみると、クリームは10万7,535tで、前年に比べ4,426t(4.3%)増加した。

一方、脱脂粉乳は15万8,179t、チーズは11万8,347t、バターは7万1,698tで、前年に比べそれぞれ1万4,366t(8.3%)、7,045t(5.6%)、3,360t(4.5%)減少した。

図9 主要乳製品の生産量（全国）

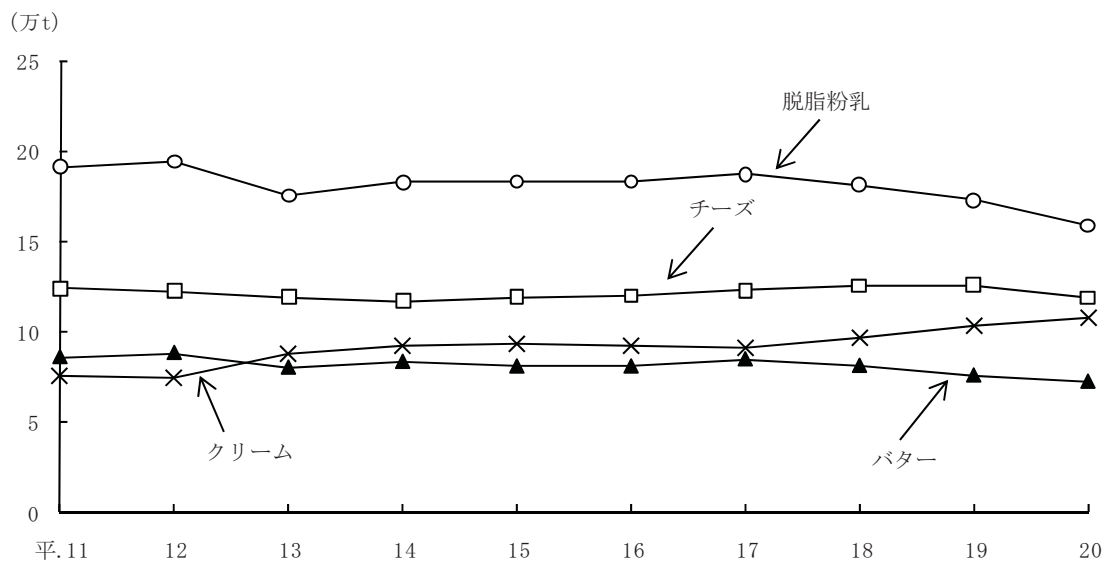


表8 乳製品生産量（全国）

単位 { 生産量：t
比率：%

年次	全粉乳	脱脂粉乳	調整粉乳	バター	クリーム
平成20年	13 543	158 179	30 197	71 698	107 535
19年	14 027	172 545	30 039	75 058	103 109
対前年比	96.5	91.7	100.5	95.5	104.3

年次	チーズ		加糖れん乳	無糖れん乳	脱脂加糖れん乳	アイス クリーム
	ナチュラルチーズ					
平成20年	118 347	20 649	36 956	1 016	6 094	126 179
19年	125 392	17 486	37 458	1 041	6 349	134 035
対前年比	94.4	118.1	98.7	97.6	96.0	94.1

kl

4 牛乳処理場及び乳製品工場数

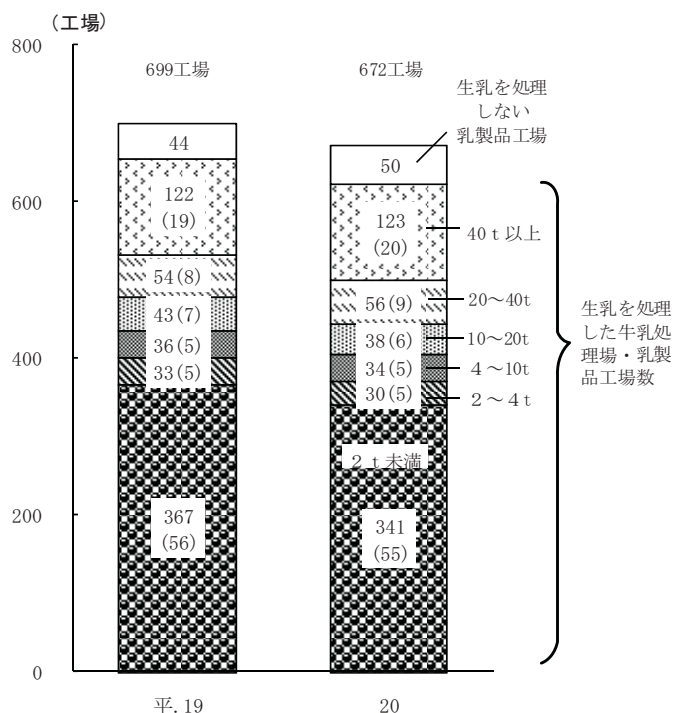
平成19年は調査対象699工場の調査結果であるが、平成20年は調査対象678工場のうち調査票の回収ができた672工場についての調査結果であるため利用に当たっては注意されたい。

(1) 処理場・工場数

— 生乳を処理した牛乳処理場・乳製品工場数は622工場 —

平成20年12月の1日当たり生乳処理量規模別の牛乳処理場・乳製品工場数(12月31日現在)をみると、2t未満の牛乳処理場・乳製品工場が341工場で最も多く(生乳を処理した工場数に占める割合55%)、次いで40t以上が123工場(20%)となっている。

図10 12月の1日当たり生乳処理量規模別の牛乳処理場・乳製品工場数(全国)(12月31日現在)



注：()内は、生乳を処理した牛乳処理場・乳製品工場数を100とした生乳処理量規模別の牛乳処理場・乳製品工場数割合

表9 牛乳処理場・乳製品工場数(全国)

単位：工場

年次	計	経営組織別			12月の生乳処理量規模(1日当たり)						
		会社	農業協同組合	個人その他	2t未満	2~4	4~10	10~20	20~40	40t以上	生乳を処理しない乳製品工場
平成20年	672	467	51	154	341	30	34	38	56	123	50
19年	699	478	55	166	367	33	36	43	54	122	44

(2) 全国農業地域別処理場・工場数

－ 関東の処理場・工場シェアは18.3% －

全国農業地域別の処理場・工場数をみると、関東が123工場(全国に占める割合18.3%)で最も多く、次いで北海道が115工場(同17.1%)、東北が82工場(同12.2%)の順となっている。

図11 処理場・工場シェア（全国農業地域別）

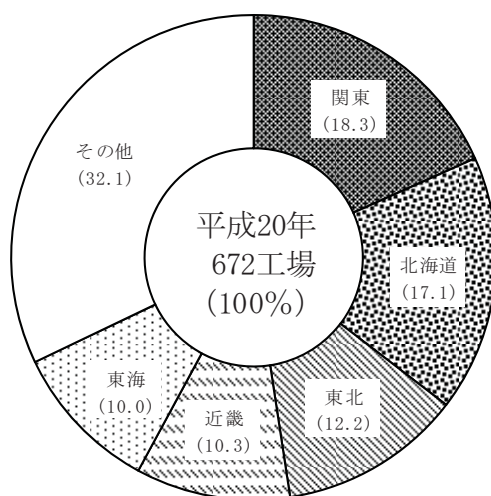


表10 処理場・工場数（全国農業地域別）

年次	単位：工場											
	北海道	東北	北陸	関東	東山	東海	近畿	中国	四国	九州	沖縄	
平成20年	115	82	53	123	33	67	69	48	13	58	11	
19年	117	85	56	128	35	72	70	51	14	59	12	

(3) 製造品目別処理場・工場数

－ 牛乳を製造した工場は497工場 －

平成20年1月から12月に牛乳乳製品を製造した牛乳処理場・乳製品工場数(12月31日現在)をみると、牛乳を製造した工場数が497工場、乳製品を製造した工場数が298工場である。

表11 飲用牛乳等、乳飲料及び乳製品を製造した工場数(全国)(平成20年12月31日現在)

単位：工場

年次	飲用牛乳等			乳飲料	乳製品						
	計	牛乳	加工乳・ 成分調整牛乳		計	粉乳	バター	クリーム	チーズ	れん乳	乳脂肪分8% 以上のアイス クリーム
平成20年	499	497	165	285	298	57	72	87	132	48	126
19年	534	532	177	307	301	58	69	80	137	48	133

注：1 「粉乳」は、全粉乳、調製粉乳及び脱脂粉乳を製造した延べ工場数であり、「れん乳」は、加糖れん乳、無糖れん乳及び脱脂加糖れん乳を製造した延べ工場数である。

2 内訳は各製品を製造した工場数であり、内訳と合計は一致しない。